

# 心のスイッチ



丹波市立柏原中学校  
生活指導通信

No. 十  
令和四年六月十七日  
(文責 足立 進)

## いじめの定義

「いじめ対策推進法」の第二条に「いじめの定義」として次のように書かれています。

この法律において「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的または物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）であつて、当該行為の対象となつた児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

大変解りにくい文章です。  
簡単に言うところのことです。

同じ学校や同じクラブチームに所属しているなど、つながりのある生徒の中で、言ったりしたりしたことを、相手が嫌だと感じたことはいじめに該当する。それは、SNSの中に書き込まれたものに関しても同じである。

具体的にどんなことがいじめに当たるのかの例を次の①～⑦にあげておきます。

自分が周囲の人に行っている行為で当てはまるものはないでしょうか？

### いじめの例

- ① 冷やかしからかい、悪口など、嫌なことを言ったりしたりする。
- ② 仲間外れにし、集団による無視をする。
- ③ 遊びと称して、叩いたり蹴ったりする。
- ④ ものを隠したり壊したりする。
- ⑤ ものやお金を要求する。
- ⑥ 嫌なことや恥ずかしいことをやらせる。
- ⑦ SNS等で嫌な書き込みをする。



## 「遊びのつもり」「冗談のつもり」

「嫌がっているかわからなかった」でもいじめはいじめ

嫌な事を言われたりされたりした生徒の訴えを受けて、加害生徒から事情を聴くと、「遊びのつもりだった」「冗談のつもりだった」「嫌がっているとわからなかった」ということが多く、それは言い訳ではなく、事実であることも多いように思えます。

しかし、遊びや冗談のつもりであっても、嫌がついていると気づかなかつた場合も、「いじめ」と認定しなければならぬのが現実です。

相手が嫌がる可能性があることを言ったりしたりしないと遊んだり楽しんだりできないのでしょうか？

自分自身の日常の休み時間の行為や友達との関わり方を振り返ってみてください。

## 被害ばかりを言うのではなく

自分の加害も考えられる人へ

誰もが少しは自己中心的なところがありますので、ある程度は仕方がないのですが、自分が被害を受けている時には、周囲の人に訴えたり、絶望的に悲しんだりするのに、自分が加害側にいる時には、その加害性に気づいていないということが時々あります。例えば次の①～③がその例です。

- ① 友達と幼稚でじゃれ合いのような遊びを執拗に繰り返した、その中で自分が痛い思いや嫌な思いをしたら、先生や家族に訴えるのに、実は、ちよっかいをかけた、悪ふざけが過ぎるのは、いつも自分からである。
- ② 学校のルールを再三にわたって破り、その指導をされる中で、自分の立場が悪くなつて

くると、それを反省する前に、「先輩に悪口を言われている」等、被害を訴えはじめる。

③ 自分の人間関係がうまくいっている時は周囲の寂しい思いをしている生徒に目がいくこととはないけれど、自分の人間関係がうまくいかなかった途端に、世の中の全ての悲劇が自分の中にあるような態度をとってしまう。

自分の被害だけや、自分が被害に遭わないことだけを考えると、友達付き合いをしている間は、みんなにとつての平穏な学校生活はやって来ませぬ。そのことを理解し始めた一部の生徒が、先週に実施した「いじめアンケート」の中に、次のような文章を書いてくれました。

### 「いじめアンケート」から

・ インスタグラムなどSNSの中で、悪口を書き込む人がいて、嫌な思いや悲しい思いをしている友達がいいます。  
・ 学校で、その場にはない友達への悪口を言う人がいて、注意したり、やめよ！と言ったりできない自分もイヤなのですが、すぐに人の悪口を言う人や、その言葉に同調している人がいて嫌です。

この意を決して書いてくれた複数の勇気ある生徒の気持ちに伝えるためにも、当該学年である二年生では徹底した調査と指導を行っているところです。

### 二年生の調査・指導から

まだ、調査・指導中ですが、今回の件で生徒の皆さんに「考えてほしいこと」や、保護者の皆様に「お伝えしたいこと」を書いておきます。

#### ① 加害生徒について

今回の問題は陰口というより、もっとおおっぴらに「きもい」「死ぬ」「むかつく」「うざい」「調子のんな」などの悪口や暴言を吐いている実態がありました。それらの言動は、当該生徒に嫌な思いをさせただけでなく、周囲を不安にさせる

ものでもあることを理解させ、この機会に、今後一切、攻撃的な言動を止めることを約束させています。変わろうと決意している生徒を信じつつ、学校の安心・安全な環境を守るため、厳しく見守っていきたいと思っています。

#### ② とりまきについて

その暴言を吐いている生徒のそばにいて、イヤな雰囲気を感じたり、同調したりしている生徒については、問題を感じています。そのとりまきがあることで、暴言を吐く生徒はさらに増長しています。そして、多くの生徒や保護者から、加害生徒が悪く思われる状況をつくり出しているのです。一緒にいて、周囲を威圧している存在については、きちんと改めさせます。

#### ③ 傍観者について

傍観者の中にもいろいろありますが、自分に被害が及んでいなければ、何も問題に感じない生徒もいました。そんな傍観者のいるところに安心できる環境は育ちませぬ。卑怯な言動を許さない雰囲気を作ることにつくっていかなければなりません。

#### ④ 被害生徒について

今回は被害生徒であっても、これまでには、とりまきであったり、傍観者であったりしたことがありました。今回嫌な思いをした分、自分にとだけではなく、周囲の生徒のことも思いやれる人に成長してほしいと願っています。

#### ⑤ 職員として

生徒の約四割が知っていた問題に気付いていなかったことに深く責任を感じています。いい加減に済ませるのではなく、今後も継続的に調査・指導をしていきますので、ご理解ください。

#### ⑥ 保護者の皆様へ

我が子が安心して過ごせる学校環境をつくるためには、他の生徒のことも大事に思っていたらしくとにも、学校の指導にもご理解ください。生徒たちは成長の途上にありますので、失敗し、指導される度に必ず良い方に変化していきます。生徒のことも信じてやってください。